

令和7年度 運営に関する計画



令和8年2月
大阪市立梅香小学校

大阪市立梅香小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

I 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本校は、阪神なんば線とJR環状線、北港通りと国道43号線に囲まれた住宅地を校区とした全校児童206名の比較的小規模な学校である。
保護者や地域は学校教育に比較的協力的で、児童の登校時にはPTAや地域の見守り隊の方々が横断歩道やバス停等に立ち、児童の安全確保に尽力いただいている。またPTAやはぐくみネットの活動も「子どもたちのために」という思いを大切にされており、日々の教育活動に自然な形で協力をいただいている。
児童は素直で、学校での活動に真面目に取り組んでいる。どの学年も1～2学級編成であることもあり、児童も学年の違いを気にすることなくアットホームな関係にある。また、令和6年度末の学校アンケート(児童用)では、「学校のきまりを守っているか」の設問に対する肯定的な回答をした児童の割合は85%であった。
- 学習面では、令和6年度の全国学力・学習状況調査において、国語科・算数科ともに大阪市平均を下回る結果になった。また、大阪市学力経年調査では、いずれの教科においても、大阪市平均に届かなかった。また、令和6年度末学校アンケート(児童用)で「宿題以外で、自分で学習している」の問いに肯定的な回答をした児童の割合は62%にとどまっており、意欲的な学習習慣を育成し、学力を向上させることが本校にとって喫緊の課題である。
- 体力面では、本校は校庭が比較的広く一部は芝生化されている。また、遊具も多く、外遊びをしている児童の割合は高い。毎週の全校朝会時には全校でラジオ体操を行い、継続的な運動習慣を確保したり、縄跳び週間やかけあし週間などを実施したりしている。令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、体力合計点が男女とも全国平均、大阪市平均を大幅に上回っており、項目別でも全て、全国平均や大阪市平均を上回っている。現状の数値を維持・向上していくためにも、今後も体育の学習はもとより体育的活動も大切に組み込んでいきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和4年度から7年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年95%以上にする。
- 令和4年度から7年度の年度末の校内調査において、2つの項目で最も肯定的な「思う」や「守っている」などの回答をする児童の割合を毎年下記のようにする。
「いじめはどんなことがあっても許されないと思う」・・・90%以上
「学校のきまりは守っている」・・・60%以上
- 令和4年度から7年度の年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和4年度から7年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 令和4年度から7年度の小学校学力経年調査における平均正答率が、市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 令和4年度から7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、合計得点が男女ともどの種目も前年度より1ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末において、学習者用端末を活用した活動がどの学年でも毎日3時間以上行っているようにする。
- 令和7年度末において、学習者用端末を活用した家庭学習がどの学年でも週1回以上実施しているようにする。
- 令和7年度末において、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する標準1を満たす教員の割合を75%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があっても許されないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を41%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する標準1を満たす教員の割合を69%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童は、87.4%となっており、85%を上回る結果となった。また、「思わない」と回答する児童は0%となっており、児童のいじめを許さないという意識が高まっていると言える。しかし、学年によって「思う」への回答がやや少ないところもあり、継続した指導が必要である。
- 中期目標として設定した「学校のきまりは守っている」については、最も肯定的に回答した児童は47%となり、目標の60%には届かなかった。
- 不登校の児童については、個々の児童を見ると、数年の間、登校していなかった児童が、今年度、週に1度ではあるが、登校するようになったことや、ステップルームを活用し、教室とリモート学習をするようになった児童など、状況に改善が見られる児童が見られる。また、区役所等校外の機関との連携が効果的であったケースもあり、引き続き連携を進めていく。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、79.1%となり、80%には満たなかった。また、「思わない」と回答する児童がどの学年にも10%前後見られるため、今後も、児童が自分の良いところに気づくことができるような取り組みを行っていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答した児童の割合は、32.7%となり、目標である41%には届かなかった。
各学年の授業において、話し合い活動を取り入れてはいるものの、児童が、考えを深めたり広げたりすることができたと感じるまでには至っていないことがわかった。授業の中で、話し合い活動で学習したことを振り返ることができるような機会を設ける必要がある。
- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比は、どの学年においても前年度より1ポイント以上の向上が見られた。また算数も、すべての学年で、昨年度よりも高い結果となっている。
- 中期目標で設定した、経年調査における平均正答率が市平均の7割に満たない児童の割合は、2つの学年で減少させることができた。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、学年によっては目標の72%に届かなかったものもあるが、平均で76.6%となり、目標を達成したと言える。しかし、学年が上がるにつれて「好き」と回答する児童が減少する傾向にあるため、体育科の授業の工夫や、児童が運動に触れる機会を増やすことにも継続して取り組んでいく必要がある。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数は、12月の時点で授業日の37.4%となっており、目標の50%以上には届いていない。しかし、児童の8割には満たないものの、7割以上は端末を活用しているため、活用できていない児童を減らす工夫が必要である。
- 中期目標で設定した、学習者用端末を活用した家庭学習は、デジタルドリルを活用し、3年生以上で週1回以上の実施を行っている。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合は、68.4%となっており、目標の69%を僅かに下回っている。特定の教職員に時間外勤務時間が目立つため、業務内容の見直しや、業務の分担の見直しを図っていく必要がある。

大阪市立梅香小学校 令和7年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標】安全・安心な教育の推進</p> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があっても許されないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ○ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向】安全・安心な教育環境の実現</p> <p>「いじめについて考える日」をはじめ学校教育活動のあらゆる機会をとらえ、互いに理解し認め合うことを大切に、いじめを絶対に許さない児童を育てる。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、「いじめに関するアンケート」を行い、アンケート結果を共有し、全教職員で課題解消に取り組む。 ・毎月1回、「いじめ対策委員会」を実施し、情報共有と対策の協議を行う。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・次年度への改善点</p> <p>「いじめについて考える日」の取り組みをはじめ、教育活動全般を通じて、互いに理解し認め合うことを大切に、いじめを絶対に許さないという指導を行ってきた。</p> <p>日々起きる事象や児童からの訴えに、丁寧に児童と対話しながら指導を積み重ねた。</p> <p>「いじめに関するアンケート」の結果に基づいた聞き取りや指導も丁寧に行っている。また、定期的にアンケートを行うことにより、「いじめはどんな理由があってもゆるされない」という意識を高めることができた。</p> <p>8月に教職員全員でいじめに関する研修や2学期に弁護士を招いての研修など、計画的に研修を実施し、職員がいじめに対する意識の向上にも努めてきた。</p> <p>「いじめ対策委員会」も月に1回実施され、教職員間での共通理解に努めた。その結果、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を93%と目標値を上回る結果となった。一方、「いじめはどんな理由があってもゆるされない」の項目に「そう思う」と回答できなかった児童も見られるため、その児童についても指導、支援を行う必要がある。</p> <p>今後も指導を継続して行き、いじめは絶対にあってはならないという意識を高めることが大切である。</p>	

<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>家庭や関係諸機関と連携を取りながら、個々の必要に応じた手立てや支援を行う。また、職員間で登校しにくい児童についての共通理解を図る。その際、「不登校対策委員会」も活用していく。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「不登校対策委員会」を毎月実施し、情報共有を行う。 ・関係機関との連携を図り、支援につなげるため、学期に1回スクリーニング会議Ⅱを開催する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・次年度への改善点</p>	
<p>年間を通して不登校対策委員会を定期的実施し、職員間での情報共有と児童理解を継続して進めた。</p> <p>支援にあたっては教室復帰のみを目標とせず、登校しづらい児童や教室に入りにくい児童に対して、校内ステップルームでの別室対応や短時間登校など複数の参加形態を設定し、段階的な目標に基づく支援を行った。</p> <p>個別の学習対応やオンライン参加も取り入れ、学校とのつながりを維持する取組を進めた結果、大きな数値改善には至らないケースもあるが、校内で過ごす時間の増加や参加意欲の向上など前向きな変化が見られた。</p> <p>家庭および校外の専門機関と連携しながら支援を進めることができた。今後も支援方法の工夫と連携体制の充実を継続していく必要がある。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>ゲストティーチャーの授業や校外学習等の豊かな体験活動により、一人ひとりの違いを認め合える集団作りに努める。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての学級で、「いいところ見つけ」等、自分や友達のよさを認め合う取り組みを行う。 ・全ての学級で、ゲストティーチャーによる授業や校外学習等の豊かな体験活動を実施する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・次年度への改善点</p>	
<p>各学年での道徳教育や学級活動（終わりの会でのいいところ見つけなど）で自分や友達の良さを認め合う取り組みができたことで、「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答が、目標の80%を超える87%となった。</p> <p>万博への遠足や各学年での校外学習（ピース大阪、西淀工場、津波高潮センター見学など）、外部講師（エヴェッサ大阪、オリックスバファローズ、手話教室、命の教室、非行防止教室、関西フィルハーモニー、絵本読み聞かせサークル『ぼかぼかさん』、茶道教室など）による授業を計画的に行うことができた。</p>	

大阪市立梅香小学校 令和7年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を41%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント以上向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業の中で話し合い活動(ペア、グループ、全体)の場を設定することにより、自分の考えを深めたり広げたりすることができる力を養う。</p>	B
<p>指標</p> <p>全ての学級で、一日一回以上、学習の中で話し合い活動を実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・次年度への改善点</p> <p>色々な教科の中で、ペアやグループでの活動の場を設定し、話し合い活動を行うことができた。学級全体の場では発言しにくい児童も、少人数にすることで抵抗感が減り、意欲的に話し合いに参加できるようになった。</p> <p>学級、学年の実態に応じて、話し合いの場を工夫したり、話型、ハンドサインを活用したりして、発表の仕方や聞き方を継続的に指導した。</p> <p>話し合い活動を通して友達と自分の考えを比較したり、話し合う前後での考えの変容を振り返ったりすることで、自分の考えを深めようとする意識も高まってきた。</p> <p>その結果、学校アンケートの「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」という項目において、47%の児童が最も肯定的な「よくあてはまる」と回答し、学校年度目標を達成することができた。</p>	

<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>どの教科においても「めあて」を明確にし、ふりかえり活動を充実させた授業実践を行う。また、朝学習の時間等を活用した反復練習を継続して行ったり、家庭学習の重要性について保護者へ啓発したりすることで、基礎的基本的な学習内容を確実に身につけることができるようにする。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低・中・高学年で国語科の公開授業を行い、その内容について全教員で討議をする。また、全教員が公開授業を実施する。 ・毎週3日、朝学習の時間を設定し、基礎的・基本的な学習の反復練習を行う。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・次年度への改善点</p>	
<p>朝学習の継続的な実施や、実態に応じた日々の授業内容の工夫を行うなど、基礎・基本の学習内容を身につけるための取り組みを進めてきた。</p> <p>また、年間計画に基づいて公開授業を実施し、研究討議会として指導法についての研修が行われ、日々の実践に生かすことができた。</p> <p>その結果、後期アンケートの「国語の学習は分かる」の肯定回答は90%となっており（前年度後期88%）、児童の学習に対する意識は高まってきた。しかし、児童の学力に結びついていないところもあるため、継続的な指導を行い手立てをさらに工夫していく必要がある。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>児童が運動の楽しさを味わい、体力・運動能力を向上させるために体育科の授業を工夫するとともに、児童が自発的に体を動かすことができるような体育的行事を実施する。</p>	A
<p>指標</p> <p>児童が自発的に体を動かすことにつながるような体育的行事を年間2回以上実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・次年度への改善点</p>	
<p>年間3回の体育的行事を実施し、計画通りに取り組むことができた。</p> <p>体育的行事のなわとび週間では、記録を掲示することで、学級で目標に向かって取り組む意識が高まった。また、音楽やかけあしカード、学習カード、PC等を活用し、児童が楽しみながら意欲的に運動できるよう支援した。一輪車や竹馬の開放により、多様な運動に触れる機会も確保できた。</p> <p>その結果、「体を動かして運動することが好き」と肯定的に回答した児童の割合は、77%となり、目標を達成することができた。</p> <p>移動できる遊具を活用したり、体育的行事の工夫をしたりして、今後も継続的に運動に親しめる取り組みを行っていく。</p>	

大阪市立梅香小学校 令和7年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く) ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を69%以上にする。 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>学習者用端末を効果的に活用した授業の工夫を行うとともに、端末を持ち帰ることで、家庭学習でも学習者用端末を活用できるようにする。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT活用にかかわる研修会を年間1回以上実施する。 ・ navima等、学習者用端末を活用した家庭学習を3年生以上のすべての学年で実施する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・次年度への改善点</p> <p>「3年生以上の学習者用端末を活用した家庭学習」・「ICT活用にかかわる研修会を年間1回以上実施。」の2つの指標は、達成することができた。</p> <p>各学級では、SKYMENU、navima、Google クラスルーム、「すし打」(タイピング練習)など、1人1台学習者用端末のアプリを活用して、さまざまな授業での取り組みが行われた。多くのクラスで、朝と帰りの時間の「心の天気」の入力や、学習者用端末を持ち帰っての学習が行われていた。</p> <p>しかし、年度目標である「授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。」では、12月までで37.4%と大きく下回った。</p> <p>「学習者用端末を活用した日数」があまり伸びなかった原因については、10月からの学習者用端末の持ち帰り学習において、翌日に自宅に忘れて持ってこない児童がいたり、欠席や不登校の児童が活用できなかったりする実態が含まれていることも考えられる。</p> <p>学習者用端末の活用については、次年度にむけて、使用日数を増やすための仕組みづくりなど、今後の課題を検討していきたい。</p>	

取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり
「ゆとりの日」や学校閉庁日の設定、会議の精選等を実施し、効率よく業務を遂行できるようにする。

- 指標
- ・始業式、終業式の日や研究授業の日等、年間10回以上6時間目の授業をカットする日を設定する。
 - ・長期休業期間前後の始業・終業日を弾力的に設定し、年間で合計5日を休業日とする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析・次年度への改善点

設定した指標は概ね達成できた。授業時数の調整により、時間的・心理的な余裕が生まれた。計画的な授業カットによって教材研究の時間が確保され、授業の質の向上につながった。また、研究授業日における5時間目の授業カットは、研究討議会の充実に効果があった。一方で、業務量に対する人的な余裕は少なく、空き時間の確保も難しいことから、業務改善の効果が十分に行き渡っていない現状がある。

今後は、会議のある日は掃除時間をカットし、5時間目の開始時刻を早めたり、会議や研修、学校行事等についても、必要性を改めて精査したりして、より効率的な学校運営を進めていく。

B